

■ 各日の質問予定者

日	順序	氏名
6月14日(火)	1	こ ん ど う 彰 治
	2	橋 本 洋 一
	3	杉 田 勝 典
	4	高 橋 浩 輔
	5	ストラットン恵美子
	6	池 田 尚 江
6月15日(水)	7	小 山 よ う こ
	8	山 田 忠 晴
	9	宮 川 大 樹
	10	木 南 和 也
	11	宮 崎 朋 子
	12	上 野 公 悦
6月16日(木)	13	滝 沢 一 成
	14	大 島 洋 一
	15	中 土 井 か お る
	16	丸 山 章
	17	高 山 ゆ う 子
	18	牧 田 正 樹
6月17日(金)	19	安 田 佳 世
	20	栗 田 英 明
	21	平 良 木 哲 也
	22	橋 爪 法 一
	23	宮 越 馨

※各日の質問予定者は、変更になる場合があります。

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
<p>1</p> <p>30 番 こ ん ど う 彰 治</p>	<p>1. 学校の働き方改革を踏まえた部活動改革について</p> <p>(1) 令和3年度は、長岡市、村上市、胎内市、妙高市がモデル地域として「地域運動部活動推進事業」を実施していたが、当市においては今後どのような日程で「部活の地域化」を進めていくのか以下について聞きたい。</p> <p>ア スポーツ団体(クラブ)への説明 イ 学校並びに生徒及び保護者への説明 ウ 小学校体育連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟との調整 エ スポーツ協会との関係 オ 令和8年度までのタイムスケジュール</p> <p>(2) 今後、部活動の地域化を進める上で、クラブへの参加のための経費が必要となる。以下の経費について補助制度や減免制度の創設などを考えているか聞きたい。</p> <p>ア 保護者負担 イ クラブチームの運営費 ウ クラブ指導者としての「教諭」に対する報酬 エ 利用施設の使用料など</p> <p>(3) スポーツ団体によっては、その団体が公認するコーチ資格がないとクラブとして認可せず大会への参加を認めないような場合も考えられる。このことに関し以下について聞きたい。</p> <p>ア 上記のような情報は把握しているのか。 イ コーチ資格を取得する際の補助制度の創設などの考えはあるのか。 ウ どのような方法で地域に各スポーツ団体の受け皿をつくっていくのか。</p> <p>(4) 市教育委員会では、「上越市部活動の検討委員会」を設置するというのであるが、委員会の構成メンバーを聞きたい。</p> <p>(5) 小学校と中学校のクラブ化については、市の主導で可能と考えるが、高校の部活動も兼ねる場合について、どのようなイメージを持っているか。</p> <p>2. 南葉高原キャンプ場について</p> <p>(1) 平成30年12月19日に落雷が原因とされる火災で焼失した南葉高原キャンプ場の宿泊施設、南葉山荘の再建に関し以下について聞きたい。</p> <p>ア この施設は、建物共済に加入していたが、全焼した施設において災害共済金の支払いはあったのか。 イ 災害共済金の支払いがあれば、施設の再建は可能と考えるが、施設の再建を考えているか。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
2	
16 番 橋 本 洋 一	<p>1. スポーツイベントについて</p> <p>(1) ソフトボールの新しい日本女子リーグ「JDリーグ」の公式戦が当市で開催されたが、開催意義と効果についてどう考えているか。また、スポーツイベントの開催と運営に当たっては、スタッフの高齢化と人手不足が課題とされているが、市としての考え方はどうか。</p> <p>2. 市長の政治姿勢について</p> <p>(1) 市長就任から7か月が経過したが、市長の発言に関して幾度となく釈明と陳謝が行われている。このことについて、市長の認識を聞きたい。</p> <p>(2) 令和4年3月定例会の最終日の討論で、各派から市長の政治姿勢に対する要望や議案に対する意見、付言等があったが、このことについてどう考えるか聞きたい。</p> <p>3. 公約プロジェクトの進捗状況について</p> <p>(1) 公約プロジェクトについて、誰が、何を、どのように、いつまでに行うのか。組織体制、方向性、スケジュール等現在までの進捗状況について聞きたい。</p> <p>4. 自主防災組織のあり方について</p> <p>(1) 人口減少、少子高齢化、コロナ禍などにより、地域コミュニティの維持が危惧されている中、今後の自主防災組織のあり方についてどう考えているか聞きたい。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
3	<p>1. 移動市長室や市民と市長との対話集会を実施した所感と意見等への対応について</p>
25 番 杉 田 勝 典	<p>(1) 多くの市民や団体から直接意見等を聞いてきたと思うが、これまでの感想や事業の成果をどう捉えているか。また、要望や意見等をどう整理し、対応していくか聞きたい。</p> <p>2. 外国人労働者（技能実習生含む）の労働実態と課題などについて</p> <p>(1) ハローワーク上越管内において、昨年10月31日時点で1,184人の外国人労働者が働いており、今後も人手不足によって外国人労働者が増え続けると考えるが、市内の外国人労働者の労働実態や課題を把握しているのか。</p> <p>(2) 市民と外国人市民との多文化共生について、どのように取り組んでいるか。</p> <p>3. 過疎地の雇用創出を目指す「特定地域づくり事業協同組合制度」について</p> <p>(1) 清里区の農業法人7団体で設立された「星の清里協同組合」は、通年雇用の社員を募集するという事で稲作の担い手確保のみならず、過疎地の活性化にも繋がると考えるが、市ではどのような効果を期待しているか。また、「星の清里協同組合」が「特定地域づくり事業協同組合」に認定されたことによる他地域への波及効果はどうか。</p> <p>4. 通年観光における北陸との長期的な連携・相互観光戦略について</p> <p>(1) 今後、幅広い通年観光を目指す上で、県西部に位置する本市としては、長野県との連携はもとより、北陸との一層の連携や相互観光戦略も必要と考えるがどうか。また、北陸の自治体への連携の打診は考えていないのか。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
4	<p>1. 上越市の交通網における優位性及び拠点性をいかすことについて</p>
6 番 高 橋 浩 輔	<p>(1) 市長は自身の「政策骨子 2020」の中で、「広大な工業港や高速道路、新幹線を有する意味はこれから真価を発揮する要素です。かつて越後国府が当地に存在した意味はいまも失われてはいません」、「上越市は東日本、東京、西日本、そして海外をつなぐ要の位置にあるのです」と述べている。これらは地の利や交通網における、上越市の持つ優位性や拠点性について指摘されていると理解する。これらの真価を最大限に発揮させ、上越市の発展につなげていくために以下のことを聞きたい。</p> <p>ア 上越市における陸路(道路)、海路(港湾・航路)、鉄路(鉄道)の現状をどのように捉えているか。また、それぞれが抱える課題があるとすれば何か。考えを聞きたい。</p> <p>イ 上越市の強みのひとつに、陸路・海路・鉄路の3つが「揃っている」ことが挙げられるのではないかと考える。人口減少・コロナ禍・脱炭素等様々な要因により、物流を取り巻く環境が変化してきている。物流における上越市の優位性を維持し、地域経済の更なる活性化につなげるためには、この変化に対応する必要があると考えるがどうか。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
5	<p>1. 通学路等における防犯カメラの設置について</p> <p>(1) 上越市みんなで防犯安全安心まちづくり推進計画の改定に向け、安心安全な子どもたちの育成を育む環境づくりの一環として、通学路や公園などに防犯カメラを設置することを積極的に検討する必要があると考えるが、市の考えを聞きたい。</p> <p>2. 修学旅行・教育旅行を通じた観光振興について</p> <p>(1) 当市への修学旅行・教育旅行について、市で把握している受入れの状況を聞きたい。</p> <p>(2) 妙高市グリーン・ツーリズム推進協議会が修学旅行・教育旅行として、上越市、妙高市、糸魚川市の3つの地域を学習できる上越エリア体験学習プログラムの提供をしているが、こういった広域連携による課外学習提供の有効性をどう捉えているか。また、当市への修学旅行・教育旅行に広域連携を取り入れ、提案していく考えがあるか市の見解を聞きたい。</p> <p>(3) 社会課題を取り入れたスタディツアーや、その土地で栄える産業振興を学ぶ教育旅行など、修学旅行は、観光を中心とする旅行から少しずつ変化しており、これからの当市の産業振興やツーリズムの強みを検討する上で大きなヒントになると考えるがどうか。</p>
5番 ス ト ラ ッ ト ン 恵 美 子	
順位	質 問 事 項
議席 氏名	
6	<p>1. 中山間地域の農地保全について</p> <p>(1) 中山間地域において人口減少、特に高齢化に伴う農業後継者不足の問題が進む中で、農地保全のあり方について、市はどのように現状把握し、分析しているか。また、その保全に向けてどのように考えているか聞きたい。</p> <p>2. 食料自給率向上に向けた取組について</p> <p>(1) 世界的に穀物の流通が不安定化する中で、今後の食料自給率向上に向け、食糧生産基地である当市としてどのような農業施策に取り組んでいくか考えを聞きたい。</p>
17番 池 田 尚 江	

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
7	<p>1. 市政におけるeスポーツの活用について</p> <p>(1) eスポーツは、大会やイベントの開催による集客拡大が期待される。当市においても交流人口の拡大や経済効果を高めていくため、eスポーツの普及に取り組んでいくことが必要と考えるが、eスポーツの効果をどのように認識しているか。また、市政において活用することは考えられないか。</p> <p>(2) 群馬県スポーツ推進計画では、eスポーツの市場規模が毎年10%以上増加していることから成長産業として捉え、今後の施策展開の柱としてeスポーツの普及、拠点化を明記している。当市としても積極的に取り組み、後発にならないよう、交流人口の拡大に向けeスポーツに関する部署を設置してはどうか。</p> <p>(3) eスポーツは直接的な接触を避けられるため、新型コロナウイルス感染を予防しながらできる健康増進プログラムとして注目を集めている。高齢者の介護予防にeスポーツ事業を取り入れてはどうか。</p>
3 番 小 山 よ う こ	<p>2. 公共施設の男性用トイレの設備について</p> <p>(1) 男性用トイレにサニタリーボックスを設置する動きが、一部自治体や商業施設に広がっている。病気が原因で尿漏れパットを使用している方などのために、当市においてもサニタリーボックスの設置が必要と考えるが、現在の公共施設の男性用トイレにおける設置状況と今後の設置予定について聞きたい。</p> <p>(2) 男性用トイレには、おむつ交換台やベビーチェアが少なく、子どもを連れた男性が困っている。ジェンダー平等や子育て支援のためにも、公共施設の男性用トイレにそれらを設置する必要があると思うがどうか。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
8	<p>1. 市道の修繕について</p> <p>(1) 市道については、市道パトロールの結果や町内会などからの要望を受け修繕を実施し、道路利用者の安全性を確保していると承知している。現状の修繕要望の件数について聞きたい。</p> <p>(2) 小規模な修繕や緊急性を要する修繕は、迅速に対応し、市民の生活に支障をきたさないように取り組んでいると承知している。小規模な修繕等では、どのような流れで積算や見積りを行い、施工までを行っているのか聞きたい。</p> <p>(3) 市民から要望がある市道の修繕工事について、3年・5年の期間で計画を作成した上で、予算を配分するなどの取組を行う考えはないか。</p>
12 番 山 田 忠 晴	<p>2. 市内のマンホール蓋の修繕及び更新について</p> <p>(1) 市民や除雪事業者からは、マンホール蓋と道路の段差解消の要望が多い。また、設置から年数が経過している箇所を中心に、随時、更新や段差解消に取り組んでいると考えるが、マンホール蓋と道路の段差解消の現状と更新の計画について聞きたい。</p> <p>(2) 他市では、マンホール蓋更新に新技術を取り入れ、施工時間の短縮と1日当たりの施工数を多くすることにより、市民生活への負担軽減と業務の効率化を図っているが、当市における施工方法や新技術に対しての考えを聞きたい。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
9	<p>1. 当市における人口減少対策について</p>
11 番 宮 川 大 樹	<p>(1) 本年5月16日に市議会から市長宛に人口減少対策に関する提言書が提出されたが、市としての受け止め方と今後の対応について聞きたい。</p> <p>(2) 不妊不育治療・出産支援について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 子どもを産みたくても、不妊や不育に悩む夫婦も多く、不妊治療や不育治療には多額の費用がかかる。それは本年4月からの保険適用となっても同じであり、かえって不妊治療助成が廃止されたことにより個人負担が増加するケースがあると聞く。改善策についての考えを聞きたい。</p> <p>イ 「着床前検査」などは保険適用外不妊治療であることから、現行の市の不妊治療助成を来年以降も継続し、子どもを産みたい家庭への負担を減らすことが必要と考えるがどうか。</p> <p>ウ 市内企業等で働く市民が、不妊治療休暇を取りやすい環境を整備する制度を設けることが必要と考えるがどうか。</p> <p>(3) 婚活支援について、以下の点を聞きたい。</p> <p>ア 市では、現在どのような婚活支援に取り組んでいるか聞きたい。</p> <p>イ 新潟県が実施している婚活支援事業「ハートマッチにいがた」が昨年度までの5年間で150組の成婚実績を達成しているが、上越市の成婚数が少ないと報告されている。市としても当事業に協力して成婚数を伸ばすべきと思うがどうか。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
10	<p>1. 上越地域の今後の姿について</p>
1 番 木 南 和 也	<p>(1) 政府が推進する「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、全国の市区町村間の競争が予想される中、今後の企業誘致のあり方として、上越市は他の市区町村との差別化を図るためにどのような戦略を考えているのか。</p> <p>(2) 市長が昨年12月にJM-DAWNに入居した企業との面談の際「駅周辺に企業を誘致することは私たちの目標。協力いただきたい。」と述べた。また、今年5月には「サテライトオフィス誘致支援事業」の委託候補者が決定した。今後、更にIT関連企業の需要が見込まれることから、上越妙高駅周辺の環境整備に関し、更に集中的に投資し、積極的な開発が必要であると考えているが、どうか。</p> <p>(3) JR東日本が公表している資料によると、信越本線は著しく利用者が減少している。人口減少を考慮すると、今後も利用者は減少していくと予想される。実際、令和4年3月に信越本線の運行本数が削減された。また、えちごトキめき鉄道や北越急行の経営状態も芳しくなく、昨年度の補正予算で並行在来線対策事業として支援したが、市民の移動手段である鉄道を維持していくために、更に市の積極的な関わりが重要であると考えている。特に、えちごトキめき鉄道に関し、今後想定される変電所等の大規模修繕や値上げについて、どう考えているか。</p> <p>2. 上越市のキャリア教育について</p> <p>(1) 上越市の教育大綱にはすこやかな育ちの推進として、社会的・職業的自立に必要なキャリア教育の充実に取り組むとある。実際に中学校での「職場体験」は生徒の勤労観、職業観を育むために成果を上げてきた。しかし、この2年間はコロナ禍の影響で「職場体験」が実施できなかったと聞く。そこで、今年度における上越市の「職場体験」を含めたキャリア教育の方向性について聞きたい。</p> <p>3. 直江津地区のまちづくりについて</p> <p>(1) 今年度予算の「まちなか居住推進事業」は、人口減少と高齢化が進む中で、インフラなどの公共サービスを効率化し、高齢者などの交通弱者が住みやすい街を作る等、「まちなか」にとって特に重要な政策である。現在、進行している直江津地区の途中経過と今後の進め方について聞きたい。</p> <p>4. 市の共催・後援事業の審査基準について</p> <p>(1) 外部団体が市や教育委員会に対し共催・後援の申請が数多くあると思う。その審査基準について聞きたい。</p>

	<p>5. 新型コロナウイルス感染症対策について</p> <p>(1) 5月に入り、政府は「マスク着用に関する新たな考え」を順次示している。後藤厚生労働大臣は「エビデンスベースで対応すべき」と科学的な根拠を示し、どのような場面で外していいのか議論していくことを表明した。そこで、市と教育委員会では、マスク着用をはじめとした新型コロナウイルス感染症対策について、今後どのような対応を講じていくのか。</p>
<p>順位</p>	<p>質 問 事 項</p>
<p>議席 氏名</p>	
<p>11</p>	<p>1. 農業におけるコロナ禍での資材や燃料高騰などの影響について</p> <p>(1) 農業における資材や燃料高騰などが叫ばれているが、この状況が長引けば新規就農や担い手確保にも影響が出ると考えるがどうか。</p> <p>2. 地域の防災意識の向上に向けた取組について</p> <p>(1) 令和3年の市内火災件数は54件と近年で最多であったが、その要因をどのように分析しているか。また高齢化が進む中、住宅防火対策の普及啓発はどのように取り組んでいるか。</p> <p>(2) 災害時を想定して、日頃からの消防団と自主防災組織との連携強化は必要と考えるが、どのように取り組んでいるか。また、今後の取組を聞きたい。</p> <p>(3) 近年多発している集中豪雨などに備えて、気象庁では「気象防災アドバイザー」を自治体へ派遣している。今後は自主防災組織の強化や市民の防災意識啓発も含め、その活用を推進すべきと考えるがどうか。</p> <p>(4) 市民一人一人の防災意識を高めるために「マイ・タイムライン」(個々の防災行動計画)の作成は有効と考えるが、今後、どう取り組んでいくのか。</p> <p>3. 通年観光プロジェクトにおける寺町の街並み整備・保存について</p> <p>(1) 現在の寺町の街並みの色彩について、どのように感じているか。また、寺町をどのような景観の観光地にしたいと考えているか。</p> <p>(2) 刻々と観光のニーズが変わる中で、中長期的な視野で取り組んでほしいが、その財源や工程についてはどのように考えているか。また、遂行していく上でどのような課題があるかと考えるか。加えて、住民も高齢化する中で、それを維持管理していくことの課題を市はどのように考えているか。</p>
<p>7 番 宮 崎 朋 子</p>	

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
12	<p>1. 市長の政治姿勢について</p>
29 番 上 野 公 悦	<p>(1) 市長は、新潟県知事選挙後の記者会見において「これからも県政と市政が前に進んでいけるように協力体制をつくっていきたい」と述べるとともに、花角知事支援の考えについて問われ「(原発に関し)方向性が私と違うところはなかった」、「ご本人は県民党とおっしゃっている。現実的なところを判断し応援した」と言われた一方で、今夏の参院選については「(立候補を予定している)どちらの方も応援しない。国政選挙であるので、政党によらない、ある意味市民目線から判断してどちらにも関わらないのが妥当と思っている」との立ち位置を表明した。そこで次の点について市長の考えを聞きたい。</p> <p>ア 原発再稼働については、花角知事は争点化を避けた。原発を巡る様々な重大事案、政治状況の中、県民の不安は一層増しており、今期の知事在任中に再稼働に向けた準備が整う可能性が大きい。こうしたことから、当然、知事選での議論が行われるべきであった。市長は、再稼働の争点化を避けられ、議論が深まらなかった状況をどのように感じているか。</p> <p>イ 市長はそもそも原発再稼働そのものをどのように考えるか。再稼働はすべきではない、廃炉への方向をはっきり言い定めることができないか。</p> <p>ウ 先の衆院選挙において、市長は野党の統一候補である候補を応援した。今参院選についての関わり方は矛盾するのではないか。市長の言われる「市民目線から判断してどちらにも関わらないのが妥当」と言われる根拠が理解できない。ご都合主義と言われても仕方がないと思うがどうか。</p> <p>2. 上越市が関わる生活に必要な鉄道の維持支援策について</p> <p>(1) えちごトキめき鉄道や北越急行は大変厳しい経営状況にある。全国の三セク鉄道事業者でつくる「第三セクター鉄道等協議会」がまとめた2019年度の経営状況を見ると、えちごトキめき鉄道はワースト5位、北越急行はワースト4位である。今後更なる苦境が現実となっている。市長は、えちごトキめき鉄道の中長期的な安定経営に向けた方針について積極的な協力、連携強化を表明している。そこで、具体的にはどのような支援を行うつもりなのか。以下の点について聞きたい。</p> <p>ア 両三セク鉄道事業者の経営安定に向けた国への支援の働きかけや、出資も含めた県や沿線3市の新たな支援スキーム構築を考えているか。</p> <p>イ えちごトキめき鉄道が直面している施設・設備の修繕や更新にどう支援・対応を行っていくか。</p> <p>ウ えちごトキめき鉄道の直江津D51レールパークや「観光急行」の利用促進、妙高市や糸魚川市、また富山県や長野県との観光連携による利用促進への市としてできる支援策などはどのように考えているか。</p>

	<p>エ えちごトキめき鉄道は、令和7年4月から更に運賃を2割値上げする方針を示している。更なる値上げによる鉄道離れも起きる。利用抑制を防ぎ、利用者負担軽減のための利用者への運賃補助などの支援も考えられるがどうか。</p>
<p>順位 議席 氏名</p>	<p>質 問 事 項</p>
<p>13</p>	<p>1. 地域自治推進について</p>
<p>20 番 滝 沢 一 成</p>	<p>(1) 去る5月16日総務常任委員会が2年がかりでまとめた『「地域自治・住民自治、地域協議会、総合事務所」への提言』が前議長から市長に手渡された。提言全体の評価を聞きたい。</p> <p>(2) 提言書で挙げている項目について、賛否とその理由を聞きたい。</p> <p>ア それぞれの区の地域計画を策定する事</p> <p>イ 自治区単位のあり方を検討する事</p> <p>ウ (地域協議会は)地元の課題を集約する仕組みをつくる事</p> <p>エ 地域協議会委員への費用弁償のあり方を検討する事</p> <p>オ 13区の総合事務所の機能集約及び機能分担を図る事</p> <p>(3) 地域自治推進プロジェクトでは、「地域のことを地域で実行できる取組」「地域の人材」「地域のニーズ」を検討の観点とし、総合事務所、まちづくりセンターを含む庁内協議、地域協議会や住民組織など団体へのヒアリングと協議、他自治体の事例調査を進め、地域自治の仕組みの強化を目指すとしているが、依然として「官の立場」での自治推進を図っているかに見える。地域自治・住民自治の主体は住民自身であることは言をまたない。住民を軸にしない状態で真のプロジェクトと言えるだろうか。そのことについて、どのように論理を構築しているのか。</p> <p>(4) 「地域協議会が令和5年度予算案への反映を視野に入れた自主的審議を行う」事が進められているはずだが、全区で「令和5年度予算案への反映」ができる状態に向かっていると認識してよいか。</p> <p>(5) 令和5年度以降廃止予定の地域活動支援事業にとって代わる予算枠について、例えば「各地域(各区)独自予算」として、特別に設けるのか。既に、全ての事業は個々に議会での議決を要すると答弁しているが、更に具体的な仕組みを示してほしい。</p>

2. 官民連携推進について

- (1) 上越市が平成27年から地方創生に関する様々な事業に取り組んできた中で、官民連携の取組について、これまでの主な成果を聞きたい。
- (2) 市長が掲げる8つの政策プロジェクトを推進するに当たって、「民の力」の活用あるいは市長の謂うところの「民間との共創」が有効であり、かつ必要なものと思われるがどうか。また、それぞれのプロジェクトにおいて、具体的にどのような「共創」が考えられるか。

3. 寺町のあるべき姿について

- (1) 市長はかつて市議会議員であった時代から、寺町の整備の必要性を語ってきた。また、現在市長が標榜する通年観光と寺町の整備は密接に関わると考える。寺町の現状をどう捉えているか、また整備のビジョン(あるべき姿)とはどのような形か示してほしい。
- (2) 寺町モミジの会など、自主的にかつ自費でまちの整備を行う団体が出てきた。その篤志は素晴らしいが資金的に難しいところもある。助成を考えるべきと思うがどうか。
- (3) 寺町のこれからを考えると、既に20年近く凍結されてきた高田駅西口の設置計画を復活させ、実施すべきであると考えているがどうか。

4. 高田城址公園の飛べない白鳥について

- (1) 高田城址公園北堀に羽を怪我し、飛べなくなった白鳥がいる。これまで心配した多くの住民が保護を市や県に訴えてきたが、比較的元気である事、捕まえようとして余計に傷つける可能性がある事などを理由に、保護するに至っていない。毎日観察している住民からは「日増しに弱ってきている」「カラスに虐められている様子も見える」との声もある。このまま死なせては、市の責任が問われるところである。県と計らい早急に保護すべきではないか。
- (2) この度の怪我は水面への着水時に枯蓮に羽をぶつけたと考えられる。かつては北堀の水面の枯蓮を伐採し滑走路をつくっていた。ここ数年蓮の生育不全で水面が開いていたため中断していたようだが、これから先、傷つく白鳥を生まないために、毎年秋に滑走路をつくる作業を復活したらどうか。

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
14	<p>1. ブックスタート事業の再開について</p>
22番 大島洋一	<p>(1) 平成30年4月の国の第4次子供の読書活動の推進に関する基本的な計画では、ブックスタートの推進が挙げられている。当市では、平成14年度から平成23年度の間、ブックスタート事業を行っていたが、終了して10年経過した。終了の理由を聞きたい。また、市長は公約プロジェクトで、「子育て」を挙げ、「子育て全国一」を目指すと言明している。ブックスタートの大きな効果・役割を思えば、ブックスタート事業を早急に再開すべきと考えるがどうか。</p> <p>(2) 第3次上越市子ども読書活動推進計画では、「ブックスタートに代わる新たな取組が求められている」としている。ブックスタート事業終了後の経過とその現状について聞きたい。</p> <p>2. 駅駐輪場の整備について</p> <p>(1) 現在、直江津駅や黒井駅などにおいて、極めて簡易な形の駐輪場が設置されている場所がある。しかし、これでは風雨時に自転車が濡れたり、飛ばされたりと、利用者に不便である。とりわけ一部の駐輪場では、強風時に約10メートルも自転車が飛ばされて倒れているのは問題である。これらを迅速に改善・整備する考えはないか。</p>

順位	質 問 事 項	
議席 氏名		
15		
9 番 中 土 井 か お る	<p>1. 住民主体の地域づくりについて</p> <p>(1) 高齢化率の上昇と核家族化の進行に伴い、住民組織による地域での支え合いは、今後ますます重要となってくる。当市では、地区ごとに地域の課題を解決するための住民組織があるが、まだ、そのような住民主体の組織がない地区がある。それら地域の組織づくりに向け、どのように支援していくか考えを聞きたい。</p> <p>(2) 当市では、生活支援体制整備事業において、第一層と第二層の生活支援コーディネーターを配置している。生活支援コーディネーターは、それぞれの地域が個性を發揮し、住民主体の地域づくりを進めるために欠かせない役割を果たしているが、その具体的な活動状況について聞きたい。</p> <p>2. 子どもの健康増進について</p> <p>(1) 当市における子どもの肥満の状況はどうか。また、肥満による生活習慣病の予防の取組について聞きたい。</p> <p>(2) 平成30年にスポーツ庁は、「運動部活動の在り方に関する総合的なガイドライン」を策定し、「生徒の多様なニーズに応じた運動部の設置」を推奨した。子どもたちが楽しんで運動が続けられる、いわゆる「ゆる部活」を導入する考えはないか。</p>	
順位	質 問 事 項	
議席 氏名		
16		
14 番 丸 山 章	<p>1. 上越市こども発達支援センターの分室について</p> <p>(1) 現在、こども発達支援センターのほかに、頸北地区の柿崎区・大潟区・頸城区・吉川区に分室を置き、乳幼児の発達及び発育支援等を行うとともに、保護者からの相談等に応じ、置かれている環境で適切な指導及び訓練を行い、児童福祉の向上を推進している。しかし、分室が頸北に偏っていることから、市域が広い当市の利用者にとって利便性等が損なわれている。市民の利便性及び公正・公平の観点から、集約先総合事務所の柿崎区・浦川原区・板倉区エリアに一ヶ所ずつ分室を置くことが必須と考えるがどうか。</p>	

2. 児童を対象とした仮称「ファミリーヘルプ児童園」の設置について

(1) 保護者が日曜、祝日に勤務することで、家庭が留守になってしまう場合、現在、就学前の子どもたちは、ファミリーヘルプ保育園に預けることができるが、小学校に入学すると児童の預け先は、ファミリーサポートセンターになり、1時間800円の利用料が必要となる。就学前に手厚い支援を受けながら小学校に入学した途端、支援が打ち切れ保護者の負担が一気に大きくなる。若い世代の子育て負担の軽減を図る観点から、しかも子育て日本一を目指す市長の公約からして、少なくとも小学校卒業までの希望者に対して、ファミリーヘルプ保育園から継続する一貫性のある行政支援策として、仮称「ファミリーヘルプ児童園」の設置は重要と考えるが、どうか。

3. 公の施設(温浴施設)の適正配置について

(1) 市長は、公の施設の適正配置計画で現状維持とした3施設を除く温浴施設について、廃止に向かって進めたいとの考え方を示した。その理由として、人口を増やすには産業を活性化し、さらに、地域の宝を見つけ出し、若者を定着させる職業を生み出さなくてはならないとのことである。しかし、なぜ、今ある施設を有効活用しようとならないのか、単に廃止ありきの形式的話し合いで対応しようとしている、極めて狭い視野での判断に行政の先行きに危惧を感じる。特に、中山間地域の振興においては、投資額に見合う成果を得ようとしても極めて難しい。なぜ、国は「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」を制定し「過疎対策事業債」を発行して、過疎地域の振興に力を入れているのか、取りも直さず、食料、水及びエネルギーの安定的な供給、自然災害の発生の防止等、持続可能な地域社会の形成及び地域資源等を活用した地域活力の更なる向上の実現の推進に向けるためである。中山間地域の振興は、市土(国土)保全に極めて重要であることから、もっと広い視点での考え方が必要で、行政として、投資額に見合う成果を如実に求めたり、収支だけを睨み判断することは避けなければならない。そこで、次のような施設活用策等を提言するが、どうか。

ア 市長の公約である「各地域が主役の自治へ」に則り、現施設を市民(地域)と行政との協働の下に目標設定を含め活用策を策定したのち、10年程度の一定期間の猶予期間を設け、市民(地域)主体の地域づくりを推進させる。そのうえで、地域づくり、市土(国土)保全等にどの程度貢献できたかを検証し、廃止するか否かの結論を得るようにすることが重要と考えるがどうか。

イ 温浴施設を、それぞれ異なったコンセプトの基に施設の改修、活用策を策定する。例として、都市住民等との交流を図る、仮称「ふれあい里山センター」、要介護認定防止や100歳を目指す健康体操等を学べる、仮称「すこやか健康づくり館」、高齢者が気楽に一日を楽しく過ごせる、仮称「福祉交流ハウス」、市長の公約の通年観光を視野に入れたインバウンドの増加を見据え、仮称「インバウンド多文化交流センター」等、今ある施設を時代に即した施設に甦らせていくことが重要と考えるがどうか。

順位 議席 氏名	質 問 事 項
17 8 番 高 山 ゆ う 子	<p>1. 木田庁舎内における避難訓練の実施について</p> <p>(1) 消防法上において、収容人員 50 人以上の事業所では消防計画に基づき年 1 回以上の避難訓練を実施するよう義務付けられているが、木田庁舎の避難訓練の実施状況はどうか。実施している場合でも訓練内容は十分か。本年 2 月 11 日に県内の製菓工場で火災が発生し、6 人の尊い命が失われている。定期的な人事異動もあり、庁舎内における職員の火災対応と防災意識状況を確認したい。</p> <p>2. 児童虐待数の増加について</p> <p>(1) 当市における児童虐待数について、過去 5 年間の推移をみると年々増加しているが、その実態と、市としてどのように分析し減少すべく対応を行ってきたのか聞きたい。また、今後どのような取組により、子どもを守り虐待をなくしていくのか。</p> <p>3. 児童養護施設（若竹寮）の運営について</p> <p>(1) 児童養護施設・若竹寮は、家庭の事情により入所している子どもたちの養育と、自立のための援助を行い生活する施設であり、平成 29 年 4 月から指定管理者制度により「社会福祉法人みんなでいきる」が運営している。指定管理にした理由と運営状況、民間委託のメリット及びデメリットを聞きたい。</p> <p>(2) 施設において、職員の入れ替わりが多いと聞く。職員が頻繁に変わることで子どもたちに弊害は出ていないのか心配している。この状況を市はどう把握しているのか。また、職員数の推移や入所人数に対する適正な職員数、その処遇について聞きたい。</p> <p>(3) 子どもたちの自立支援状況を聞きたい。また、法改正により 18 才以上でも状況により施設に残れるようになったと聞くが現状はどうか。自立支援寄付金「若竹みらい創造基金」の寄付状況と運用はどうか。</p> <p>(4) 市は指定管理を委託する側として、施設運営上の課題や問題点等に対し、どう把握し対処していくのか。</p> <p>(5) 国は社会的養護として児童養護施設の他に里親制度を設けているが、市内における里親制度の現状を聞きたい。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
18	<p>1. 上越市シルバー人材センターについて</p> <p>(1) 令和3年度のシルバー人材センターと市との契約件数、契約額はどうか。</p> <p>(2) 受注件数と供給能力のバランスの状況はどうか。特に新型コロナウイルス感染症拡大による受注の減少による影響について聞きたい。</p> <p>(3) 現在最低賃金は859円となっているが、会員の配分金は最低賃金を上回っているか。</p> <p>(4) この間、シルバー人材センターから市に対して毎年要望書が提出されているが、今後市としてセンターにどのように関わっていく考えか。</p>
13 番 牧 田 正 樹	<p>2. 医療的ケア児及びその家族に対する支援について</p> <p>(1) 市内の医療的ケア児の人数及び在宅や保育園・学校の入園・入学の状況をどう把握しているか。</p> <p>(2) 市内のサービス資源の状況についてどう考えているか。また、今後の課題をどう捉えているか。</p> <p>(3) 「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」が昨年9月に施行され、県が設置または委託が義務化された「医療的ケア児支援センター」の設置状況と市内対象者の利用・連携方針について聞きたい。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
19	<p>1. 移動市長室及び市民と市長との対話集会について</p> <p>(1) 今年度、移動市長室及び市民と市長との対話集会を実施しているが、その目的と実施の概要は何か。</p> <p>(2) それらで把握された地域の課題や市政への要望・意見等は、どのように検討され、市政運営に反映されるのか。</p> <p>(3) 市長は、市民との意見交換や対話を実施し、どのように考えているか。</p> <p>2. 上越市の乳幼児教育・保育について</p> <p>(1) 近年の教育・保育の量(小学校入学前までの教育や保育を受ける子どもの数)の実績と確保(それらの子どもを受け入れる場の定員数)の状況はどのようになっているか。また、今後の量の見込みと確保の状況をどのように推計しているか。</p> <p>(2) 上越市でも少子化が急速に進んでいる。教育・保育の量(需要)と提供体制の確保(供給)に乖離が生じると思うが、どのように考えているか。</p> <p>(3) 今年度は、上越市保育園の再配置等に係る計画の第4期を策定すると思うが、どのような検討が進んでいるか。</p> <p>(4) 乳幼児教育・保育の場が多様化してきている。上越市内の乳幼児教育・保育に関わる全ての教職員が、上越市の子どもたちの笑顔と輝く未来のために、一定の質を確保しながら、共通の想いをもって取り組んでいくべきだと考える。例えば、横浜市では「よこはま☆保育・教育宣言～乳幼児の心もちを大切に～」を策定し、保育の質の向上に向け、全ての保育者が共有している。上越市も、このような取組を行ってはどうか。</p>
2 番 安 田 佳 世	

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
20	<p>1. 議会からの提言に関して</p> <p>(1) 総務常任委員会では2年間かけて『「地域自治・住民自治、地域協議会、総合事務所」への提言』をまとめ、議長から市長へ提言書を手交した。総務常任委員会では、現制度を維持することを前提とするという条件下で議論してきた。私は、「今のままの地域協議会なら不要」「準公選制はやめるべき」という立場であったが、その制度維持という前提に立って議論に加わってきた。中川市長による地域自治改革はその前提抜きの根本改革となるのか。</p>
24 番 栗 田 英 明	<p>2. 自治基本条例と共創による市政運営について</p> <p>(1) 共創は、市民参画と協働が一体になったものと言われているが、市民参画の一つである各種審議会等への一般市民公募枠が少ない理由について聞きたい。</p> <p>(2) 自治基本条例に市民参画の一つの手法としてパブリックコメントについて規定しているが、その成果は、目的に達していないのではないか。</p> <p>(3) 今年度は、自治基本条例の見直し年度であるが、見直しだけでなく、めざす姿にどれだけ近づいているかもチェックし、公表することが必要ではないか。</p> <p>3. 地域事業者の育成、支援について</p> <p>(1) 市は、地元企業の振興策にこれまでも取り組んでいるが、加えて、各地域の事業者を受注機会等を与える施策が必要と考えている。このことについて、市が発注する少額の各種工事の発注実績や物品の購入実績及び地域事業者の育成、支援の考えを聞きたい。</p> <p>(2) 市外事業者が指定管理を受ける事例が見受けられるが、指定管理者の指定に当たって、地元企業を優先する運用はしていないのか。現在の制度の運用方針について聞きたい。</p>

順位	質 問 事 項
議席 氏名	
21	<p>1. 地域医療を守ることについて</p> <p>(1) 市長は3月定例会での私の質問に対して、「柿崎病院は、現状維持を貫くということで県とは調整していきたい」と答弁したが、その後、4月27日の記者会見の席上、「ただ規模縮小とかの話はあるかもしれない」とも発言している。この矛盾した発言に関して、どのように釈明する考えか。</p> <p>(2) 柿崎病院をはじめとする地域に根ざした各病院は、地域の市民が安心して医療を受けられるよう、今後もその機能と規模を維持していくことが必要であると考え。その点をどのように担保していく考えか。</p> <p>(3) コロナ危機の下で、総務省が本年3月29日に地方自治体に通知した「公立病院経営強化ガイドライン」では、地域医療構想を前提としている一方で、2007年以来過去2回の公立病院ガイドラインが進めてきた病院統廃合から、「経営強化」に重点を移している。これは、再編・統合に反対する国民・市民の声を反映したものであると考える。この市民の声を重く受け止め、2019年発表の全国436の公立・公的病院を再検証対象医療機関として名指ししたリストの撤回と、県立病院の民間委譲や市町村移管を含めた県の病院再編・統合議論の撤回を、市として求めるべきではないか。</p>
19番 平良木哲也	<p>2. 深刻な物価高騰への対策について</p> <p>(1) ウクライナ危機によるエネルギーや小麦価格の高騰に加え、日銀の円安誘導などの愚策により、深刻な物価高騰が市民の暮らしを直撃している。市として市民生活を守るために、どのような施策を実施する考えか。</p> <p>(2) 市民の負担軽減策として、当面以下の施策を実施してはどうか。</p> <p>ア 本年4月28日付の文部科学省初等中等教育局長の通知を踏まえた学校給食費の引き下げ</p> <p>イ 国民健康保険税の引き下げと、子どもの均等割額の軽減拡充</p>

順位 議席 氏名	質 問 事 項
22 31 番 橋 爪 法 一	<p>1. 豪雪対策について</p> <p>(1) 財政制度等審議会が5月25日にまとめた「歴史の転換点における財政運営」の中で、「市町村・地域管理構想を活用した一時的な中心地居住」を提言しているが、市長の見解を聞きたい。</p> <p>(2) 災害救助法適用下における救助費の可否をめぐって、国が細部にわたる監査を実施するなどの動きがあったが、その後について聞きたい。</p> <p>(3) 救助費の対象については、関係市町村、県と共に国に対して「豪雪地の現実を踏まえた対応」を求めるべきだと思うが、市長の考えを聞きたい。</p> <p>(4) 災害救助法の適用の判断は県であり、国の判断で左右されてはならない。2020年度までの対応を基本に頑張るよう新潟県に働きかけるべきだと思うが、市長の考えを聞きたい。</p> <p>2. (株)よしかわ杜氏の郷の経営について</p> <p>(1) 昨年12月の所管事務調査で、「第三セクターとしての課題」として役員体制の強化や施設、設備の更新など3点上げられていたが、その後の対応について聞きたい。</p> <p>(2) 「第三セクター等評価委員会の評価・意見」の中で、「黒字化に向けた製造原価等の見直し、中長期的なビジョンの策定の必要性とともに、民営化の検討を強く指摘されている」とあったが、「製造原価等の見直し」「中長期的なビジョンの策定」はできたのか。</p> <p>(3) 「民間譲渡を第一候補として具体的な手続きを進める」としてきたが、今日の到達点を聞きたい。</p> <p>3. 米対策について</p> <p>(1) 上越市の米生産は危機を迎えている。米価暴落対策、肥料高騰対策、水田活用の直接支払交付金の見直し、農業者戸別所得補償制度の復活を求めて政府に働き掛けを行うべきだと思うが、市長の見解を聞きたい。</p>

